

こぶし通信

Vol.56

2023.1

社会福祉法人こぶしの会

〒630-8424 奈良市古市町529-4

電話 0742-63-6765 FAX 0742-63-6766

e-mail/kokkara@kokkara.jp <http://kokkara.jp/>

発行責任者/坂下 伸一

Column

希望はどこにあるのだろうか

社会福祉法人こぶしの会 理事長 坂下 伸一

笑顔満開、こっから旅行

昨年の11月11日に、こっから仲間旅行に同行しました。コロナ禍の中で、大勢でそろって行う行事は出来るだけ避けてきているのですが、今年は、2つに分かれ、別の日に実施、神戸フルーツフラワーパークに行きました。(この通信の7ページも参照)

私は、バスにJR奈良駅から乗りました。ステップを上がっていくと、「おはよう」という声と共に、仲間たちのうれしそうな顔が並んでいます。「そうだ、こっからに出動する時、いつも遅刻気味の仲間は、間に合って、乗っているだろうか」と思って、見てみると、ちゃんと乗っています。周りの人たちの支えもあってのことですが、旅行には遅れることはありません。

楽しみのひとつ、昼食の始まりです。ボリュームたっぷり、豪華な昼食です。私の右隣の仲間は、パクパクと食べ、あっという間にたいらげてしまいます。「おなかいっぱい」と一言。次は、乗り物がある遊園地へ。私と一緒に行動していた仲間は、ジェットコースターや大きく揺れる遊具には、怖がって乗らないだろうと思っていたのですが、平気で、次々に乗りに行きます。そう、お土産を買う時の真剣な顔は忘れられません。仲間たちの笑顔が、たくさん見られた日になりました。

明るく、希望のない今

さて、この巻頭のコラムを依頼された時、「理事長、新年に出る通信なので、明るく、希望がみえるようなものを書いて」と言われました。ちょっとしたプレッシャーとなりました。

今、世界を見わたせば、ロシアのウクライナへの侵攻が続いています。北朝鮮のミサイル実験も止むことはありません。そして、このような状況に対応するためと称し、日本政府は、軍備にお金をつぎ込もうとしています。平和が脅かされているように思えてなりません。

日本では、新型コロナ感染が3年近く続いており、第8波到来で、収束する気配は一向に見えません。当初と比べれば、行動規制は少なくなりましたが、基礎疾患を持つことの多い障害のある人や高齢者にとって、行動規制は変わることはありません。その上、物価高で、日常の生活はますますしんどくなっています。

社会保障、障害者福祉に目をむけても、介護保険の負担増が目指され、昨年の臨時国会で通過した「障害者総合支援法の改正」は、障害のある人や関係者の願いを十分に反映したものとはなっていないようです。社会保障事業に、出来るだけお金をかけないという方向が見え隠れします。

このような中で、「明るく、希望がみえることがあるのだろうか」と、つい考え込んでしまいます。

障害者権利条約と仲間の笑顔に

昨年の夏に、日本政府も批准している国際条約である障害者権利条約を、日本政府がどのように守っているのかという審査が国際連合の障害者権利委員会で行われ、9月には総括所見（勧告）が出されました。この総括所見には、「障害者への差別や偏見が残っているので、国としてその対策を進めなければならない」「精神障害者への強制、長期入院が続いており、是正しなければならない」「障害者があらゆる職場で働きやすくなるように、いろいろな配慮が必要です」など、日本政府が障害ある人たちの人権を保障するために取組んでいかなければならない事がたくさん指摘されています。また、そのために、「障害ある当事者や家族をはじめ、障害者団体と協議していくこと」が強調されています。(詳しくは、きょうされん、日本障害者協議会、全国障害者問題研究会等のホームページを参考にしてください。)

国連とその組織である障害者権利委員会は、日本も含め世界の人々が、平和と人権を守るために力を合わせ創りあげてきた組織のひとつです。ですから、その組織から、日本の障害のある人たちの現状を踏まえたうえで出された今回の総括所見の方向性は、私たちにとって「明るく、希望」の一つとして捉えてよいのではないのでしょうか。

しかし、私が思う一番の「希望」は、この巻頭コラムのはじめに書いたような仲間の笑顔と、その笑顔を決やさないようにと努力している家族、職員、後援会員などの人たちの輪の中にあるように思えてなりません。人間以外の動物は、笑うことがないと言われています。人間のみにある笑顔こそが、希望の源なのだと思います。

最後になりましたが、仲間たちの笑顔があふれる年になりますように、今年もこぶしの会をよろしく願います。



こっから仲間の絵が入選!

こっから NEWS

「奈良県障害者大芸術祭ビッグ・幡in東大寺」にとうふ工房とパン工房から15点、作品を出しました。

多数、応募された中からビッグ・幡デザインに、とうふ工房の松田薫さんの「森の親子」が採用されました。あわせて原画展には、全員の応募作品が展示されました。

原画展には色々なものを使って描いた絵や、素敵な色合いや面白い絵などありとあらゆる絵があり、仲間たちも良い刺激をうけていました。

会場の東大寺大仏殿前に行くと8つの旗が立てられていました。

松田さんの「森の親子」が組み立てられた旗は門からは1番手前で、空高く掲げられていました。また、1番上だった為、少し離れた場所で天を仰ぐ格好となりました。青空に浮かび東大寺の門を優しく守るように掲げられた8つの旗は、まさしく「ビッグ・幡」でした。

(入賞作品は、ピースサインの後ろに飾られたコアラの絵です)

(文責:奥田 昌子)



第45回きょうされん全国大会

ここすた NEWS

第45回きょうされん全国大会が3年ぶりに岩手で行われました。

陸前高田市の市長が大会実行委員長となり、市の全面協力による開催となりました。

きょうされんは、東日本大震災発生以降、東北3県への被災地支援を絶え間なく続けてきました。そのつながりが今回、異例の行政との協働を生み出しました。

こぶしの会からは、理事長を始め4人の職員と「ここに・すたあと」の2人の仲間が参加しました。

伊丹空港までリムジンバスで行き、飛行機で仙台空港へ。

近くの牛タン専門店で舌鼓。(仲間は3日間の旅程の中で一番印象に残ったそうです)

レンタカーで約2時間半かけてようやく陸前高田の有名な「一本松」に着きました。

大会参加後は、気仙沼で偶然見つけた居酒屋さんに、SMAP全員のサインが飾られていてびっくり。

翌日は大会の分科会に参加し、大いに学び交流しました。その後、車で仙台へ。

3日目は帰路につく前、楽天生命パークに見学へ。その日、夕方から始まったプロ野球の試合でオリックスが優勝しました。たまたま見つけたスタジアムで、仲間が大好きな球団が優勝するなんて、またまたびっくり。

全国大会の内容を書く紙面がなくなるほど、「仲間とともに旅する」楽しさを満喫した3日間でした。(文責:島 耕治)



ぐうぐう歓迎会の一コマより

ふゆーちゃー NEWS

今回は久しぶりのぐうぐうのトピックです。

ぐうぐうハウスに久方ぶりの新しい夜勤スタッフさんが入ってくれました。ある仲間が「歓迎会をしたい！」とのことで、くら寿司に行きました。

外食自体がコロナ禍でとても久しぶり。発案者を含め、みんな意気揚々です。

本人さんにはギリギリまで内緒でサプライズ。「私の為にありがとう」と喜んでくださいました。

とても気さくでみんなにさりげなく話しかけて沢山笑うスタッフさんにみんなも楽しい雰囲気です。

「ひと月早い忘年会みたいですね～」と朗らかに笑われて、久しぶりの外食がより楽しいものになりました。

「ただただ笑ってごはんを外でみんなで食べる」、とてもありふれた幸せで楽しい一日でした。

新年も良い一年にしていきたいと思いました。

(文責: 赤尾 信也)



そうだんしつの窓から

こぶしの会相談支援センター 小針 康子

11月28日に障害者自立支援法違憲訴訟団と国との定期協議に参加しました。2010年勝利的和解を勝ちとってから12年。奈良でもこっから紙すき班の小山富士夫さんが原告となり、こぶしの会関係者はじめ多くの人に支えられて裁判をたたかいました。国と結んだ「基本合意文書」＝司法的合意にもとづいて行われるこの定期協議。冒頭、厚労省政務官の挨拶から始まり、通常の要望活動とは違う次元を感じさせます。

66歳となった小山さんは、介護保険優先原則の実態（ヘルパーの支援時間も回数も減らされ、今まではなかった利用料負担がのしかかっていることなど）を発言しました。奈良市に障害サービスを上乘せしてもらって何とか一人暮らしを送っていますが、自治体によっては、介護保険しか使えないような対応をするところもあります。

このほか、グループホーム問題や、コロナ禍での切実な課題、人材不足などが全国の原告から縷々発言されました。

今回は国連の障害者権利委員会が、日本に厳しい勧告をしたあとの協議であり、現国会で障害者総合支援法などの改正法案審議の真っ最中というタイミングでした。「国は訴訟団との約束を守っているのか！」と質す声は、どう厚労省に届いたでしょうか。以下、ぜひご覧ください。

定期協議 情勢報告



定期協議 記者会見





Aさん

①学生の頃に福祉の勉強をしており4年間ボランティアで関わらせてもらっていました。

15年ぶりに地元に移り住んで戻ってきた時にGHの仕事に誘ってもらいました。

②最初の日仲間Sさんが「元気だった？」と旧姓で声をかけてくれたことに驚きました。

こんなに長く離れていても覚えてくれていたことがとても嬉しかったです。

うまく皆と接する事が出来るか不安でしたが仲間が心の壁をどんどん壊していってくれました。

③仕事なんだけど、私がお世話してもらっているような感覚になることがあります。

障害のある仲間の支援というより、同じ時間を一緒に過ごし、人生経験をさせてもらっています。仲間が必要としてくれることが嬉しくがんばる力になっています。



Bさん

①長く高齢者の訪問介護ヘルパーをしており、「障害」の勉強会に「こぶしの会」さんに講師で来てもらったことが最初でした。自宅がこっからの近くで親しみもあり、新しいグループホームができると聞いて、自分にも手伝えることがあればと思ったのがきっかけです。

②入院することになり、数か月仕事を休んで復帰後初めての日に、仲間が私の姿を見るなり靴も履かずに駆け寄って来てくれました。他の仲間も「大丈夫？」とニコニコ顔で囲んでくれてウルウルしたことを覚えています。

③介護分野とは違いみんな若いので、会話や遊びなどが楽しく自分も気持ちが若返ります。嫌なことは嫌と自己主張したり、周りを思いやったり。仲間が成長する姿は、嬉しさと同時に凄いなという気持ちになります。「重い障害があっても人は成長していけるんだ」と障害観が変わりました。

GH非常勤職員さんへのインタビュー

グループホームで仲間の生活を支える非常勤職員さんに「仕事の魅力」を語っていただきました。

①GHで働ろうと思ったきっかけは？

②仲間のエピソード

③やりがいとは？

「私もやってみたい!」と思われまして、ぜひ、通信の求人ページよりお問い合わせください。

(イラスト/雀部元子さん)



Cさん

①こういう仕事は初めての経験で、自分に務まるかなと心配でしたが、「コーヒーいれようか?」とか、帰りもずっと手を振って見送ってくれたり逆に仲間が気をつかってくれました。

②共同生活では、一緒に住む仲間同士や日替わりで支援に入る職員との相性の良さ悪さも当然で、ある仲間は、食事の準備でご飯を入れてくれる量がびっくりするくらい少ないときがあり、そのわかりやすい感情表現に思わず笑ってしまいそうになります(笑)。

③正解がないという事かな。コミュニケーションひとつで「前はあのやり方で伝わった」、でも「次の時にはダメだった」の連続で、その度に色々と考えたり、悩んだり。それで気持ちが伝わったような時には嬉しかったり、良かったと思えたりすることが私にとってのやりがいかな。



Dさん

①以前から他の障害のある人のGHで働いていて、知り合いのスタッフが先にこぶしの会に就職し気持ち良さそうに仕事をしていて、スタッフが全ていい人そうだったのと、連絡がスムーズな感じがしたから。

②Nさんと唄を一緒に聴こうと思い、お部屋でCDをかけたなら怒られたこと。

でも調子の悪い時でも唄を唄うとニコ~としてよい笑顔がでて嬉しいです。

③家族みたいな感じがして仲間が生活しやすいようにしたいと思う。何を求めているかを顔の表情や色々なコミュニケーションで分かっていたいです。散髪やカラオケ、買い物など仲間と一緒にいたりしてみんなのことを理解したいと思う。

「共にする」ことを大事にしたいです。

新型コロナウイルス感染症の感染対策がはじまって、もうすぐ3年。しばらくは、班単位で近場への日帰り旅行でしたが、今年は少し規定を見直し、2班合同での企画としました。

仲間自治会のメンバーもみんな生き生きと、話し合いに参加し考えを伝えてくれました。

盛り上がったのは、係の仕事決めと、バスでのおやつをどうするかという議題です。

1番人気は、やはり花形のバスでのあいさつ係。あとは、点呼やお茶の配布、乾杯係なんかもあります。

それぞれの得意な部分を存分に発揮されていました。

バスでのおやつは、検討の結果今回は食べないことにしようと決まったのですが、『マスクをしながら、ひとくちで食べられるようなお菓子はなんだろう?』の投げかけに、ハイハイ!と手を挙げ、出していた意見はどれも素晴らしいものばかりでした。

りでした。

難しい議題も多い仲間自治会の話し合いですが、旅行という『じぶんごと』としてわかりやすい内容だと、こんなに積極的な話し合いができるのだと改めて感じました。

難しい話を、仲間の『じぶんごと』にいかにか近づけていけるか。職員としてのサポート力を磨かねばと思っています。(文責: 杉原 郁美)



奈良県が発行する「はたらく障害者応援プレミアム商品券」(500円分の商品券が200円で買える)の取り扱いがはじまりました。

ここに市では販売日前から商品券購入のお問い合わせが寄せられ、地域のお客さんの期待の大きさを感じました。

10月より販売と取り扱いを始めると、「今、何でも値上がりしているから助かるわ」などの喜びの声とともに商品券の使用率も多くなってきました。

初めてここに市に足を運んでくださる方もあり、商品券取り扱いを通して、ここに市を知ってもらえる機会となっています。

取り扱いが始まって、ここに市の売り上げが過去最高2位の売り上げをあげた日もありました。

仲間も、ここに市お総菜や、こっからパンを買ったりしています。

仲間、地域の方の買い物支援、そして売り上げが増えれば仲間の工賃にもつながる取り組みとなっています。

(文責: 田村 雅子)



こっから・ここにでの商品券販売は終了しました。2023年2月22日までお使いいただけます。

第46次 きょうされん 国会請願署名・募金へのご協力のお願い

毎年、ご協力いただいている国会請願署名・募金活動がはじまりました。

- ① 優生保護法の被害者に対して、国は謝罪と補償を
 - ② コロナ危機にあっても、障害のある人の命と健康、そして障害児者事業所を守って
 - ③ 物価高から、障害のある人の生活と障害児者事業所を守って
 - ④ 障害のある人が65歳をむかえても障害福祉を使えるように
- と訴えています。

障害のある人が「あたりまえに働き、えらべる暮らしを」実現できるよう一筆でも多くの皆様のご署名のご協力をよろしくお願いいたします。

◆取り組み期間: 2022年11月~2023年4月





今回の旅行は各班から出し合った一押しの旅行企画を仲間たちが一生懸命プレゼン。

行き先を決める投票までの一週間は廊下に貼られている旅行企画を見ながら笑顔で相談する仲間の姿も見られました。仲間たちそれぞれの旅行への思いも高まり総選挙。

結果はパン工房提案の『神戸フルーツフラワーパーク』に決まりました。

その後は、当日の旗作りやどんなの乗り物に乗るかなど、仕事中の会話も旅行一色となりました。

仲間たちがのびのびと自分達をしたい事を選択し楽しむことができた、まさしく名前に相応しい『こっから仲間旅行』となりました。

(文責：城本 知美)



神戸フルーツフラワーパークに行ってきました



8月

こっから夏祭

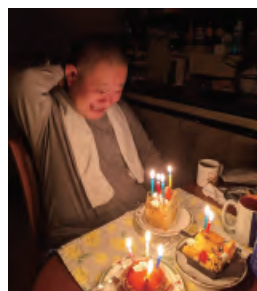


9月 ここすた♥金魚ミュージアム



Topix

ぐうぐう♥誕生日会



10月 ここすた♥
京都のサンリオ50周年展



11月 ひまわり♥
檀原の藤原京コスモス畑



紙すき♥ハロウィン仮装大会



活動♥
鹿せんべい再開

ここすた♥
新しくできたモンベルへ



紙すき♥
東大寺 銀杏の絨毯

法人♥
年賀状コンクール選考会



「優生保護法問題の全面解決をめざす」に参加して

10月25日、東京にある日比谷公園大音楽堂にて、「優生保護法問題の全面解決をめざす」をテーマにした全国集会に参加してきました。

「優生保護法問題」と聞いて、どんなことを思い浮かべますか。お恥ずかしい話ですが、私自身はニュースで見る程度のワードを知っているくらいでした。

優生保護法は、「優生上の見地から不良な子孫の出生を防ぐ」として、1948年から約50年にわたり本人同意なしに不妊手術を認めた法律でした。被害者は25,000人を超えていると言われています。

賠償と謝罪を求め国と戦っている原告の方々の壮絶な人生や、「障害がある」という理由で強制不妊手術や中絶手術を受けた話を聞いて、「そんな理由で…」 「戦後に、優生保護法という人権を無視した法律があったなんて」と衝撃を受けました。

当日は、こっからのなかまも一緒に行きました。1つ1つの言葉は、難しいと言っていましたが、前で登壇している方の話をしっかり聞き、アピール文採択では大事なところを色ペンで線を引いていました。そして、デモ行進では「しっかり声を出すことができた」と「こっからのなかま代表」として役目を果たしていました。

当日の現地参加人数は、約1300人。Web配信では約1200人の計約2500人となりました。多くの人に知ってもらうことが、優生保護法問題の全面解決への道だと思いました。



翌日

callさんに行ってきました♪

全国集会翌日に、「こっから」のおとうふを納品している東京の青山にある「call」さんを訪ねました。店内の内装は、とてもお洒落で、落ち着いた雰囲気、カフェ、食材など販売しているマーケット、その他に洋服や雑貨、布地などを販売しているスペースがありました。

「こっから」のおとうふは人気があり、いつも買って下さる常連のお客様がおられると伺いました。とても嬉しく思い、これからも仲間と一緒に美味しいおとうふを作っていこうという気持ちになりました。

(文責：西口 祐史)





2023年のこぶしの会の年賀状は「すたあと」の樋上絵理奈さんの絵と「こっから」の田中慎也さんの書が入選しました。

審査員長 坂下理事長よりコメント

たくさんの作品を応募してもらい、どれも2023年が良い年になるような絵ばかりでした。
なかまのみなさん、ありがとうございました。

表・紙・解・説

■絵のタイトル:「うさぎ年」

作 者 馬場 ちとせさん



得意な絵は大好きなドラえもん、ドラミちゃん、ジャイアンです。

今年の干支であるうさぎを描きました！
友だちたくさん、歌も大大大好き、みんなとこっからバスに乗っています！



社会福祉法人こぶしの会では、事業拡大に伴い私たちと一緒に働いてくれる、
正規職員（生活支援員）非正規職員（生活支援員・グループホーム職員・送迎
スタッフ）を募集しています。

■生活支援員(正規職員)

支 援 内 容	障害のある人たちの仕事や生活のサポート（食品製造・配達、文化活動、健康維持、身辺自立等） 送迎、法人内事業所間の異動有
勤 務 時 間	8時45分～17時30分（配属班によっては早出有り）
給 与 ・ 手 当	183,270円～191,265円（調整手当含む） 賞与2カ月／年 通勤手当、住宅手当、家族手当、処遇改善手当、その他職務手当
社会保険等	健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労災保険
必要資格等	普通自動車免許（必須）、基本的なPC操作（エクセル、ワード）

※非正規職員も募集しています。1,010円（経験者1,060円）

■グループホーム支援員(非正規職員)

支 援 内 容	グループホームでの生活全般（食事、入浴、整容等）の介助や見守り
勤 務 時 間	16時～翌10時までの宿泊をとまなう勤務 ※またはこの時間内で3～5時間で宿泊をとまなわない勤務についても応相談
給 与 ・ 手 当	1,010円（経験者1,060円） 夜勤手当、通勤手当、業務手当 ※契約時間によって社会保険適用
必 要 資 格	不問

求人は随時おこなっています。未経験の方も安心して働けるようサポートします。詳細・お問い合わせにつきましては、
こっから／梅田(0742-63-6765)又は法人本部／藤井(0742-63-6504)までご連絡ください。

編集後記

先日、今年度の当初予算が計画通り実行されているかを見直す
中間総括を行いました。各分野で達成できている事を評価し、未
達成のところはその原因を分析し、後半の活動方針を立て直す。
こぶしの会がここ数年、将来にわたって安定した法人運営をめざ
すために力を入れている事のひとつです。今から約40年前、「社会
福祉は権利」であると私たちは学んできました。それがいつのこ
ろからか「社会福祉はサービス」に変わり、「柱一本ずつ持ち寄っ
て」障害のある仲間やそのご家族、そして地域の人たちが共感関
係でつながり、ともに作り上げてきた共同作業所運動は、利用契
約をもとにしたサービス提供者とサービス利用者という利害関係
で成り立つ障害者福祉事業という仕組みに変化していきました。

社会福祉法人は常に経営を求められ、加算とペナルティという縛り
の中でどうすれば収入が増えるかを追いかけて、儲けられない法人は
大規模法人に吸収合併されていくという流れが出来つつあります。
こぶしの会もそんな情勢の中であり方を問われています。施設経営
において『お金』は本当に必要です。でもそれよりももっと大切な
ことがあります。何のための事業なのか、誰のための実践なのか、
何をめざす運動なのか。厳しい状況の中で、やりたくてもできてい
ないこと、まだまだ力不足で失敗することもあります。今できる
ことを誠実に頑張ること。そして「こぶしの会となら一緒にやりた
い」、「こぶしの会が頑張っているから応援しよう」そうしてもら
えるような『信用』を積み重ねていくこと。今回の通信もそんな仲
間の日々の姿や活動の様子が集まりました。ぜひ感想をお聞かせ
ください。そして誰もが住みよい社会の実現をめざして、本年もよ
ろしくお願いいたします。（文責：古木 一夫）

こちらも
ご覧ください

<http://kokkara.jp/>

・ネットショップ ・活動ブログ
・ニュースブログもお楽しみ下さい。



こっから facebook